

| | | | |
|----------------|------------------------------------|------|-------|
| グループ名 ・代表者名 | 福島老朽原発を考える会（フクロウの会） 青木一政 | 助成金額 | 70 万円 |
| 連絡先など | QZL00322@nifty.com | | |
| 助成のテーマ | 福島原発事故に伴う生活環境の放射能汚染実態調査と住民の被ばく最小限化 | | |

【調査研究の概要】

- ・子どもや住民の被ばくを最小化し住民の健康被害を減らすことを目的として活動を行っている。活動ポイントは下記のようなものである。①空気中のホコリの放射能調査。②子どもを中心とした尿検査による内部被ばく実態の調査。③低線量被ばくの危険性についての周知と啓発。
- ・2015年度の活動状況と成果は下記のようなものです。
 - (1) 各地のグループと連携して尿検査と被ばく最小化を推進
福島県伊達市、宮城県白石市、栃木県塩谷町、東京都あきる野市などで被ばく最小化を進める保護者グループとの連携ができた。
 - (2) 地域の協力により内部被ばく状況の違いが明らかになってきた
地域による内部被ばく実態の違いが見えてきた。福島県など放射能汚染の高い地域と東京在住の人を比較すると、尿からセシウムが検出される比率も福島の方が多く、また検出されるセシウムの濃度も高い傾向がある。
 - (3) リネン吸着法は空気中のホコリの放射能を敏感に検出する
大気中のホコリの放射能を測定するためにリネン吸着法プロジェクトを進め、東日本を中心に 62 カ所の調査を行った。またエアダストサンプラーとリネン吸着法のデータの相関関係を調査した。

【調査研究の経過】

- ・「リネン吸着プロジェクト」では、東日本を中心に延べ 62 カ所での測定を実施した。測定結果はウェブサイト上にマップの形で公開した。http://chikurin.org/?page_id=3390
- ・福島県、栃木県、宮城県などを対象に 88 人の尿検査を行った。
- ・尿検査結果などをもとに、低線量被ばく問題の講演・セミナー・学習会を各地で 17 回実施。延べ約 500 人が参加。

【今後の展望など】

- ・尿検査の結果から地域により内部被ばく状況に違いがあることが判明。引き続きデータを積み重ね精度の高いものにする。
- ・リネン吸着法により大気中粉塵の放射エネルギーを捉えることが可能であることが判明。風の強いところと弱いところでリネン吸着の効率には約 7 倍程度の違いがある。更にデータを積み重ねて相関関係を明らかにしてゆきたい。
- ・地域で尿検査を推進するグループとの協力関係ができた。今後更に、連携関係を深めるとともに他地域への展開を図る。

| 会計報告書の概要 (金額単位: 千円) | | | 充当した資金の内訳 | | |
|---------------------|--|-------|-----------------|---------------|------|
| 支出費目 | 内 訳 | 支出金額 | 高木基金の 助成金を充当 | 他の助成金 等を充当 | 自己資金 |
| 旅費 | 東京・福島 1 回/月×1 人×12 カ月=240 千円 | 376 | 76 | 30 | |
| 資料費 | パンフレット、リーフレット印刷 50 千円×2 回 =100 千円 | 5 | 5 | | |
| 外部委託費 | 尿検査費用(16500 円/人×90 人)=1,500 千円, リネン吸着法検査費用(90 検体×12,000 円)=1080 千円, 土壌分析等 (50 検体×2,500 円)=120 千円 | 1,527 | 27 | 1,500 | |
| 人件費 | 事務アルバイト 0.4 万円×5 0 週=200 千円 | 408 | 208 | 200 | |
| 運営経費 | 通信費、郵送料、事務費 | 51 | 51 | | |
| 合 計 | | 2366 | 366 | 2,000 | |

参考文献 (ウェブサイトや書籍、成果物など)

- ・「フクロウの会 年次報告 2015 Annual Report 核のない社会をめざして」(2016 年 5 月 15 日発行)
<http://fukurou.txt-nifty.com/fukurou/2016/05/post-73da.html>

放射能測定プロジェクト — これまでの活動経過(2011～2014年度)

| 分類 | 活動内容 | 社会的貢献 |
|-------------------------|--|---|
| 事故直後の初動 2011.3～ | サーベイメーター(Inspector)10台を福島県内に配布(米NIRSからの支援)。福島市内小学校校庭汚染調査。 | 学校校庭使用基準1ミリを要求して文科省交渉。(長期的に1ミリを目指すとの言質) |
| 各地の汚染実態調査 2011.4～ | 福島市(渡利、大波)、伊達市内、埼玉、三郷等で地域の保護者と共に実態調査(空間線量、土壌汚染) | ホットスポットでの保護者たちの調査活動支援。行政への調査・除染要請行動支援。 |
| 尿検査による内部被ばく調査 2011.5 | 事故後初めて子どもの尿中セシウム検査実施。福島市内の10人で全員の尿からセシウム検出。食品からの取り込みによる横ばい、上昇する例も明らかにした。 | 尿検査により内部被ばく調査ができることを広く社会的にアピールした。 |
| 放射能分析・監視体制 2012.10～ | ゲルマニウム半導体測定器による高精度分析と監視体制の構築(市民放射能監視センター ちくりん舎の設立) | 市民レベルでの尿検査、水、食品などの高精度分析が低料金でできる体制を確立した。 |



プロジェクトの狙い

避難指定解除反対、ごみ焼却炉反対、子どもや住民の被ばく低減、避難・移住支援、保養、検診範囲拡大、医療支援充実などの**運動が存在する**。これらを進めるための**具体的な論拠となる調査活動と世論喚起、啓発**を行う。

➤ 大気中浮遊塵の放射能調査。

- 食品検査は自治体や市民測定所を中心に広範囲に行われているが、大気中浮遊塵の放射能調査は市民レベルではほとんど行われていない。
- 市民のアイデアから生まれた**リネン吸着法**による大気中浮遊塵の放射能調査の技術確立と普及。

➤ 尿検査による内部被ばく調査の推進。

- ホールボディカウンターは検出限界が高い。尿検査によりホールボディカウンターよりも数十倍～百倍高い精度での調査と対策ができる
- 特に知らず知らずのうちに体内に取り込んでしまっている人達に焦点を当てた検査の継続

➤ チェルノブイリや福島事故における健康被害の研究と周知。

- 低線量被ばくの危険性についての報告書類の学習・研究。



被ばく最小化のための市民のさまざまな活動と一体の活動として行う。

放射能測定プロジェクト — これまでの活動経過(2011～2014年度)

| 分類 | 活動内容 | 社会的貢献 |
|----------------------------------|---|--|
| 尿検査による内部被ばく調査継続 2011.8～ | 尿検査による内部被ばく調査を継続した。食生活での対策、呼吸からの取り込み対策などにより体内セシウム量が下がる事例を明らかにした。 | 毎年約100人の尿検査の実施。データを元に保護者などへの内部被ばくの注意喚起のセミナー等、年間約10回程度開催。 |
| ガラスバッジによる個人線量管理の問題点を警告 2015.1 | 福島など全方位からの放射線照射では正面からの照射想定(放射線業務従事者)に比べ4割過小評価になることを明らかにした。伊達市議会で問題点を指摘、千代田テクニカル役員もこれを認め(説明不足を)謝罪した。 | 政府が進めるガラスバッジによる個人線量管理の問題点を広く社会的にアピールした。 |
| 大気中粉塵の放射能調査 2014.7～ | リネン吸着法により大気中粉塵の放射能を簡単に調査できることを明らかにした。各地での測定開始。 | リネン吸着法による各地での大気中粉塵の放射能測定を行った。20か所程度実施。 |



成果(1) 各地のグループと連携拡大—尿検査と被ばく最小化を推進

福島県伊達市に続き、宮城県白石市、栃木県塩谷町、東京都あきる野市などの保護者グループとの連携拡大。



地域のグループでの講演会、勉強会などで尿検査の説明



地域の推進者と連携して尿検査の推進



結果報告会、学習会の実施。各自が対策を考えて3カ月～半年後に再検査実施。



地域での被ばく最少化の取り組み拡大・強化。

成果(1) 各地のグループと連携拡大—尿検査と被ばく最小化を推進

各地の推進者の声

目には見えないけれど確かにある放射能という汚染の中で過ごす私たちにとって、この検査はとても大切なことなんだと実感しています。空気の汚染はどれ位なのか、子どもの体にどれ位取り込んでいるのか...など、検査によって見えたことで、どういったことを気をつけていけば良いのかというより具体的な対策ができ、漠然とした不安を減らすことができました。

また、同じように不安と孤独を感じながら子育てしている母さん達とも繋がり、勉強会を通じて思いを共有できることはどれ程心強いことか！

本当にありがとうございます。これからもどうぞよろしく願いいたします。

(栃木県、Iさん)

5

成果(1) 各地のグループと連携拡大—尿検査と被ばく最小化を推進

各地の推進者の声

私たちの町では、農業が盛んです。どこでつくられたのかわからないものを買うよりも・・・と、震災後一層地産地消が進んでいるように思える土地です。豊かな田園風景に癒され、生産者の顔までわかる食べ物を手にできることが本本当に有難いです。

一方で、土にはほぼ全域にセシウムが検出されますが、春にはトラクターにより土おこしがはじまり土埃が風に舞います。放射能がたまりやすい側溝汚泥は路肩に上げられ、乾けば風に舞います。秋には野焼で煙が町を覆います。

このような生活で私たちの被ばく状況はどうなのか、とても心配しています。

尿中のセシウム、リネンで空気中に舞うセシウムの量、食材中の放射能を知ることができたら、それぞれの被ばく量やその原因を考えることができます。

私たちの体に被ばくの影響が出てからでは遅いのです。少しでも早くに現実を知ることで、被ばくを減らすための具体的な対策を考えることができます。

これらの調査は、私達にとって必要不可欠となってしまいましたが、放射能検査を各自で行うにはあまりにも金額的負担が大きいのが現実です。

引き続きこのような調査が無料で行えたらと願っています。

また、これらの調査を継続するためには、人の信頼関係がとても大事になりますので、講師さんが直接私たちの土地に来てくださることがとてもありがたいです。

(岩手県、Tさん)

6

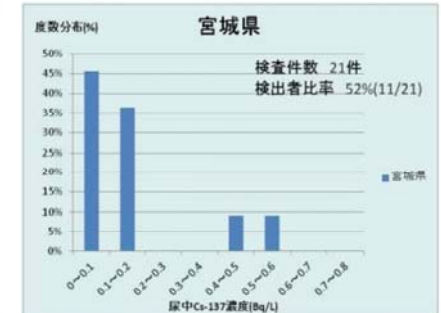
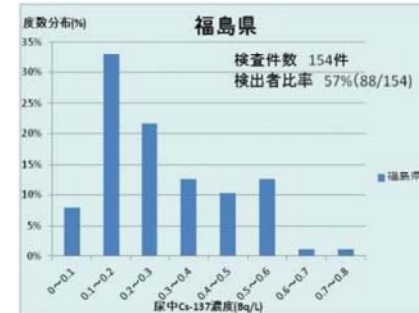
成果(1) 各地のグループと連携拡大—尿検査と被ばく最小化を推進

首都圏でのキャンペーン・拠金・募金活動と地域活動との連携 地域での活動強化のためのツール(チラシ、マニュアル)等の整備

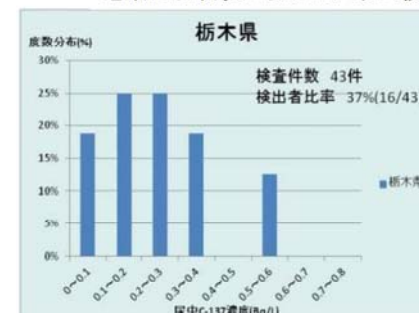


街頭宣伝と募金活動(チャイロのネットの皆さん)

成果(2) 地域の協力により内部被ばくのレベル差が見えてきた



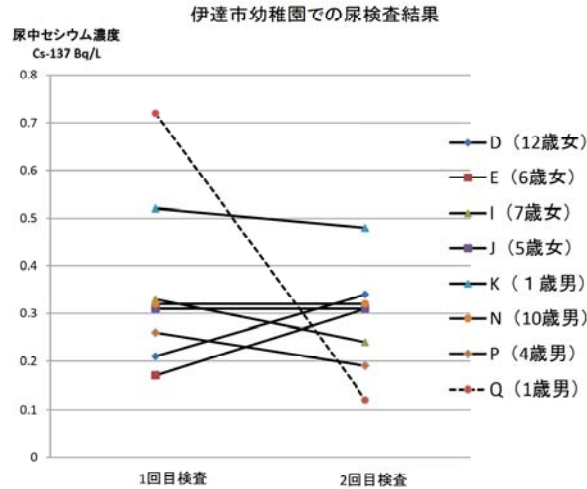
地域により尿からのセシウム検出者比率、検出レベルに差がある



フクロウの会/放射能測定プロジェクト調査(2013/4~2016/1)

成果(3) 継続摂取による慢性的な内部被ばく状態

伊達市私立幼稚園での園児たちの継続検査。



Q(1歳男)は劇的に減少。⇒砂場遊び(1日1時間程度)を控えた。

多くの子どもが0.15~0.35程度で横ばい。⇒慢性的なセシウムの取り込み状態。⇒呼吸による取り込みの可能性。

成果(3) 継続摂取による慢性的な内部被ばく状態

尿中のセシウム量と米の関係ー南相馬市に住むFさんの事例

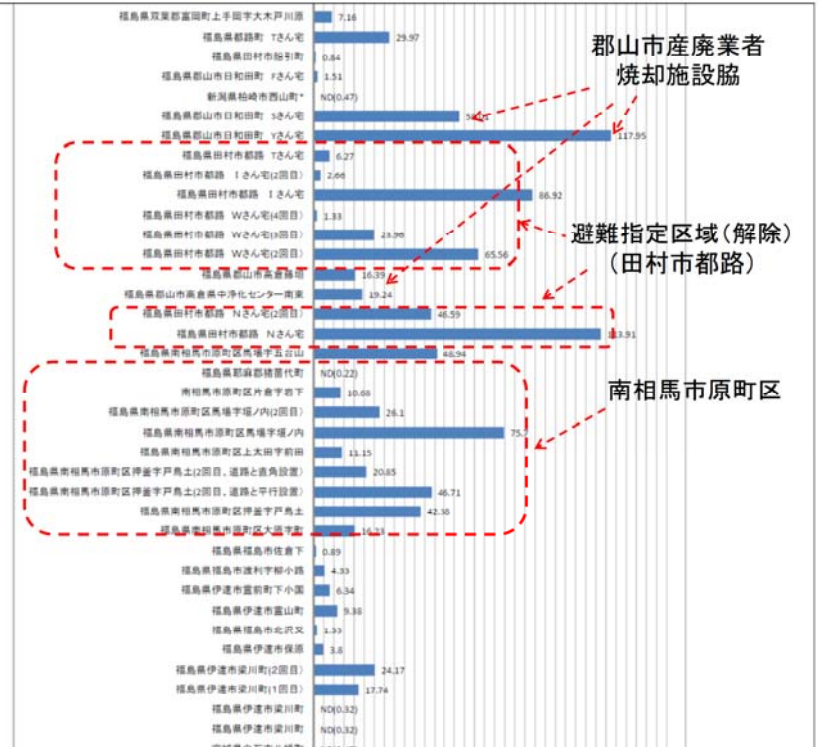
南相馬市在住のFさん (70代男性)

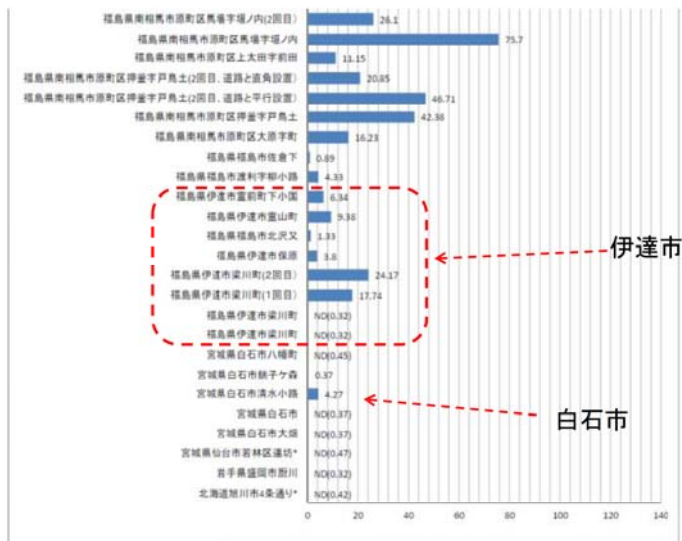
尿検査結果 0.72Bq/L (Cs-134:0.14, 137:0.58)

Fさん宅で常食する米(相馬市新地町産 1Bq/Kg (Cs-137,134))

| | 尿中のセシウム量から体内のセシウム量を推定 | 米のセシウム量から体内のセシウム量を推定 |
|--------------|---|--|
| 計算方法 | <ul style="list-style-type: none"> ●1日の尿量中のセシウム量 1.5L×0.72=1.1ベクレル ●尿中セシウム量から推定される体内のセシウム量 1.1×(50~100)= 55~110Bq | <ul style="list-style-type: none"> ●1日米2合食べるとして 300g 米1合150g ●1日の米からのセシウム摂取量 (1.08Bq/Kg:Cs-134,137合計推定) 1 × 0.3 = 0.3Bq/日 ●生物学的半減期100日として シミュレーション⇒40Bq |
| 体内のセシウム量(推定) | 55~110Bq/Body | 40Bq/Body |

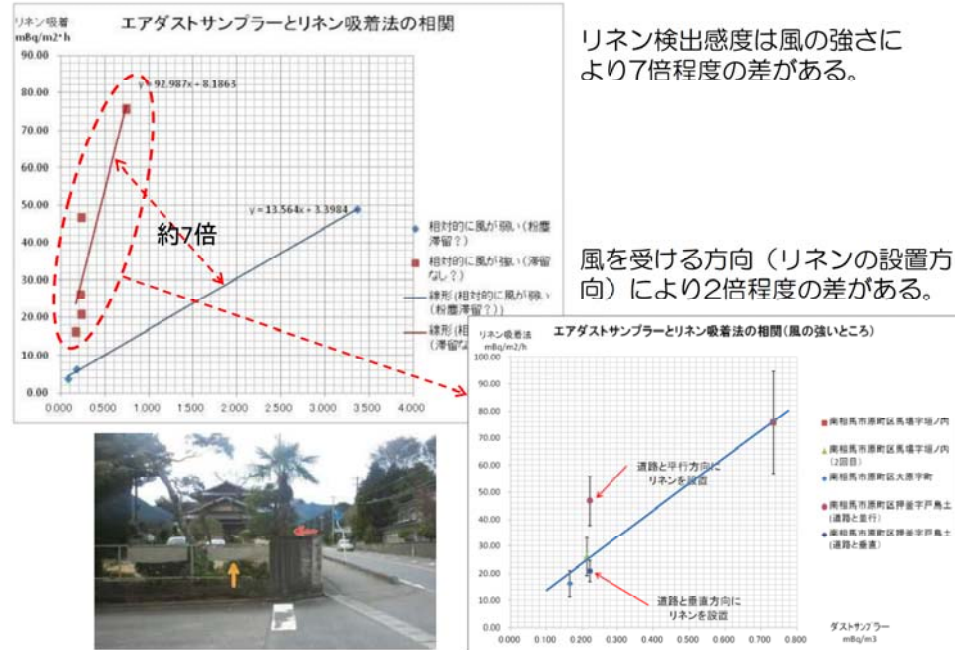
成果(4) リネン吸着法による各地のデータ収集(69か所) リネンはホコリの放射能を敏感に検出する





測定結果はウェブサイト上でマップ上に公開表示
http://chikurin.org/?page_id=3390

成果(5) リネン吸着法の特性—風の強さと風の向きによる影響



成果(6) 除染ごみの焼却と「資材化」の問題を警告

2016.1.13 南相馬2021基準撤回訴訟第2回公判報告集会

再び放射能を南相馬にまき散らす
 蕨平「資材化」施設の危険性



市民放射能監視センター(ちくりん舎) 青木一政
 たまあじさいの会 中西四七生

- たまあじさいの会のみなさんと共同で焼却炉からの放射能拡散について検討。
- 南相馬避難基準20ミリ撤回裁判原告団勉強会、第2回裁判期日報告集会でプレゼン。
- フクロウ・FoEチャンネルへ出演して解説。
- 8000Bq以下の除染土の公共工事利用に反対する政府交渉で環境省を追及。



今後の課題

- 各地のグループと連携して被ばく最小化、汚染拡大防止、健康被害防止の課題に取り組む。
- 尿検査の継続—地域によるセシウム取り込みの違いをより明確にする
- リネン吸着法による大気中粉塵調査継続。
- リネン吸着法の特性データの積み重ね。
- 甲状腺がんや健康影響の実態をチェルノブイリの実態と合わせて調査、研究する。
- 除染ごみ焼却や除染ごみ拡散の実態、汚染状況の調査、研究する。
- 各地のグループと連携して学習会、講演会、ワークショップなどにより被ばく防護、低線量被ばくの危険性についての啓発を継続する。
- ICRPの内部被ばくの過小評価を批判すること。